

# 特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）  
〔PCT36条及びPCT規則70〕

REC'D 23 FEB 2006

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 KW307PC	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2005/006698	国際出願日 (日.月.年) 30.03.2005	優先日 (日.月.年) 31.03.2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. G06F17/30(2006.01), G01C21/00(2006.01), G08G1/0969(2006.01), G09B29/00(2006.01)		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社 ケンウッド		

- この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。  
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
  - ☐ 附属書類は全部で ページである。
    - ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
    - ☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
  - ☐ 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。  
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。  
(実施細則第802号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 28.10.2005	国際予備審査報告を作成した日 07.02.2006		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 鶴谷 裕二	5M	3364
	電話番号 03-3581-1101 内線 3599		

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2005年4月)

## 第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
- ☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
- ☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
- ☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))
- ☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 4-15, 19	有
	請求の範囲 1-3, 16-18, 20-22	無
進歩性 (IS)	請求の範囲	有
	請求の範囲 1-22	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-22	有
	請求の範囲	無

## 2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

- 文献1: JP 2002-340596 A (クラリオン株式会社) 2002.11.27, 【0011】-【0013】, 【0022】, 【0027】, 【0032】  
& US 2002/0169547 A1 & EP 1258707 A2
- 文献2: JP 2001-184359 A (住友電工システムズ株式会社)  
2001.07.06, 【0017】, 【0018】, 【0038】  
ファミリーなし
- 文献3: JP 2002-55989 A (エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社)  
2002.02.20, 【0033】 ファミリーなし
- 文献4: JP 2003-203075 A (グッド・コミュニケーション株式会社)  
2003.07.18, 【0056】 ファミリーなし

説明:

請求の範囲 1-3, 16-18, 20-22

請求の範囲 1-3, 16-18, 20-22に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1から新規性を有さない。

文献1には、音声認識によりユーザの発声から指示を認識し、指定位置又は現在位置周辺の指定した距離の範囲内にある指定したジャンルの施設を検索し、近い順に表示することが記載されている。

請求の範囲 4, 5, 8-13, 19

請求の範囲 4, 5, 8-13, 19に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1, 2より進歩性を有しない。

道路を示す複数位置を入力をし、施設検索の範囲を、入力開始位置から終了位置までの範囲の道路沿い又は道路から所定距離内とすることは、文献1に記載されていない。

しかしながら、文献2には、検索線の始点及び終点並びに検索線からの距離を指定し、地図上の線沿い検索の検索範囲の指定を行うことが記載されているから、文献1に記載の発明において、道路を示す複数位置を入力をし、施設検索の範囲を、入力開始位置から終了位置までの範囲の道路沿い又は道路から所定距離内とすることは、文献2より、当業者にとって容易である。

(続葉あり)

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V 欄の続き

## 請求の範囲 6, 15

請求の範囲 6, 15 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 1－3 より進歩性を有しない。

3 回又はそれ以上の位置の入力により 3 又はそれ以上の位置を頂点とする 3 角形又は多角形の領域を検索の範囲とすることは、文献 1 に記載されていない。

しかしながら、文献 3 には、マウスによるポリゴン範囲（3 点以上のポイントを指定し、指定した順に 2 点間を直線で結んだ閉領域）指定により地図上での範囲指定を行うことが記載されているから、文献 1 に記載の発明において、3 回又はそれ以上の位置の入力により 3 又はそれ以上の位置を頂点とする 3 角形又は多角形の領域を検索の範囲とすることは、文献 3 より、当業者にとって容易である。

## 請求の範囲 7, 14

請求の範囲 7, 14 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 1－4 より進歩性を有しない。

複数位置の入力をし、最初及び最後に入力された両位置の中間位置を基準として施設の検索を行うことは、文献 1 に記載されていない。

しかしながら、文献 4 には、地図上の検索の範囲を指定する際に、地図上で 2 点を指定し、それらの点を直径とする円内を範囲とすることが記載されており、その円の中心は指定した 2 点の中間位置であるから、文献 1 に記載の発明において、複数位置の入力をし、最初及び最後に入力された両位置の中間位置を基準として施設の検索を行うようにすることは、文献 4 より、当業者にとって容易である。

（続葉なし）